

(仮称)

自然ふれあいの森

ニュースレター 第03号

平成14年11月30日発行 発行：「(仮称)自然ふれあいの森」管理運営準備委員会

管理運営準備委員会報告

第7回/平成14年9月29日(土) ワークショップ
第8回/平成14年10月26日(土) イベント



準備委員会発足から約半年のあいだ行動をともししてきた4つの班(どんぐり・みのむし・きのこ・はっば)を再編成することになり、新しく4つの班が誕生しました。この4班は森の中でのアクティビティ(活動)



別に組成されたもので、植生調査などを行う「学術班」、下草管理などを行いメンバーが活動できる広場を整備する「開拓班」、イベント時にメンバーにふるまう料理を作る「食事班」、自然の素材を使って遊び道具や小物を作る「遊び班」という構成になりました。メンバー個々の希望をもとに4つの班に分かれてもらいワークショップをスタート。ワークショップのテーマは「次のイベントについて」。初めてメンバー以外にメン

バーの家族や友達を誘ってみてこれまでの倍ぐらいの人数を対象にしたイベントを企画することになりました。時間帯は朝9時から昼食をはさんで午後3時くらいまでを想定。各班で企画内容を話し合ったあとリーダーが班ごとの企画内容を発表し、各班の午前、午後それぞれの活動内容の大枠が決定しました。その後、各班でイベント準備のための事前ミーティングを開き、本番に向けた詳細の打合せや講習会などを行いました。



写真/「新たな生命(いのち)」 森委員より

「森の学校」第三回(全四回) 自然ふれあいの森

森と人との新しい関わり方を求めて

環境教育について少し触れたいと思います。アメリカの海洋生物学者であり作家で、環境教育の先達でもある故レイチェル・カーソン女史は、著書の中で「子供たちの世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感激に満ち溢れています。残念なことに、わたしたちの多くは大人になるまでに澄みきった洞察力や、美しいもの、畏敬すべきものへの直感力をにぶらせ、あるときはまったく失ってしまいます。世界中の子どもに生涯消えることのない「センス・オブ・ワンダー=美しさ、神秘さ、不思議さに眼をみはる感性を授けて欲しい。」と述べています。」日本でも1970年代からの国際的な議論を受けて、1991年から環境教育を位置付けていますが、知識を得ることを中心にしていることや、現在の経済活動と環境保全とのバランスを改めて模索する姿勢にかけている等の

問題点も浮き彫りになっています。

前回も少し触れましたが、「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない、とレイチェルも言うように、子ども達と共に「感じる」ことからはじめ、現代社会のライフスタイルとの調和を図れる仕組みを模索することが環境教育において大切な視点となります。神戸市・自然の家では、総合学習の取り組みとして滞在型の環境教育をアーティストと共に展開しています。子どもたちと一緒に忘れてきた感性を取り戻す場に「森の学校」がなることを願っています。



管理運営準備委員会委員 忍野 裕樹

学術班 「木と友達になろう！」

樹木にもっと関心を持ってもらおうと、特徴や名前の由来等が描かれた樹木札を25種類の樹木につりさげました。イベント前に数名の有志によって(仮称)コナラの丘より(仮称)アラカシ広場に至る周辺の樹木を調べ、作られた樹木札を全員でラッピング、穴あけ、紐通しをした後に樹木につりさげました。



学術班参加者：増田、夏原、神田、北井、瀬川、坂東、福田、三瀬、櫻木、谷村、岩澤、渡辺、岡田、石垣、一般参加者3名

「(仮称)自然ふれあいの森」イベント ふれあいの森においでよ!

食事班 「みんなで豚汁を食べよう！」

だいこん、にんじん、かぼちゃ、ねぎ、なすび、さつまいも、さつまいものツル、だいこんの葉、枝豆などは市民委員の方から無農薬野菜をいただきとても美味しい豚汁に仕上がりました。みなさんの「美味しい」という言葉と笑顔がとてもうれしかったです。



男性陣は僕にも負けず火を、女性陣は材料の準備です。どんでんでいくにつれて、周りにはいい香りが立ちこめてきます。各組ごとに活動した後、みんな揃って美味しくいただきました。

(仮称)自然ふれあいの森特製「豚汁」レシピ

- 1 豚肉、野菜を切る。長時間煮込むため、野菜は家庭で作るときよりも大きめに切る。
- 2 湯が沸騰したらダシを入れ、火の通りにくいものから入れていく。
- 3 肉を入れ、アクを取りながらさらに煮る。
- 4 火が通ったら、味噌を溶かし入れる。
- 5 最後にねぎ、大根の葉を散らす。
- 6 みんなで美味しく食べる!!

食事班参加者：衣笠、伊藤、平峰、長濱、藤田、瀬川、久下

開拓班 「森を元気にしよう！」

(仮称)アラカシ広場から(仮称)コナラの丘までつづく道を整備しました。ネザサを刈って、ツル草を取り除き、段差のある登りにくいところには、階段を作り、とても歩きやすい道ができました。午後からは、法道寺川沿いを探索し、癒しの空間や眺めのいいスポットをいくつか見つけることができました。しかし、ここで痛恨のミス。カメラを持参していなかった！これらの美しい風景は、みなさんの目でお確かめください(笑)。開拓班がご案内します。



開拓班参加者：日下、原田、松弘、森、谷崎、大嶋、忽那、多喜

第8回管理運営準備委員会では10月26日(土)9:30から開拓班、学術班、食事班、遊び班、に分かれて実際に現地の中で活動をしました。初めて家族や友達を呼んでの活動でいつもよりも楽しい時間を過ごせたのではないのでしょうか。

遊び班 「自然素材で小物をつくら！」

市民委員の森下さんの指導のもとに自然素材を使って竹笛(鳥の形)、どんぐりトトロ、リースを作成しました。素材を集めるために森の中を散策すると今まで見えなかったものがたくさん見えてきました。自然の素材を使ってこんなに色んなものが作れるのか！こんなに楽しいのか！という驚きの中、満面の笑みを浮かべながら個性あふれる小物ができました。みんなが子供に戻ったような気分で楽しい時を過ごしました。



遊び班参加者：大谷、児島、豊田、森下、石浦、川浜、山西、清野、一般参加者6名

ちょっとお勉強のコーナー その3

堺市における里山 —丘陵地の植生の歴史的変遷



時代	植生
人類が出現する以前	光明池の底にある大阪層群の地層(氷期、約50万年前)では、ハンノキやエゴノキ、チョウセンマツの果実とミツガシワの種子が見つかった。ハンノキ、エゴノキについては現在もこのあたりに生育している。少し後の時代にあたる、温暖な時期(間氷期)の泉北丘陵の地層からは、常緑のコナラ属(カシ類)の花粉や化石が発見された。
人類が出現してから弥生・縄文時代まで	人類が大陸から日本に移ってきた時期(数万年以上前)は、最後の氷河期で、現在金剛山や葛城山に生育しているブナを含む落葉広葉樹林が大阪周辺にも広がっていた。今から約8,000年前から始まる縄文時代の地層からは、暖地に生える常緑性のカシ類やシイ、ヤマモモ、イヌマキなどの花粉化石が見つかる。しかし、約4,000年前に始まる弥生時代には再び寒冷化し、ほぼ現在と同じ気候になり、温帯性のシイやカシ類を中心とする照葉樹林におおわれていた。また、地形についても現在とほぼ同様であった。
古墳時代から奈良・平安時代まで	古墳時代になると泉北の丘陵地は須恵器の生産の中心地となり、これらの陶器を焼くための燃料として樹木が切り倒されて使われていた。そのため、成長が遅く、切り株から新芽を出す力の弱いカシ類はだんだん少なくなり、それに代わって成長の早いコナラなどの落葉広葉樹が増加した。しかし、奈良時代にはあまりにも短い周期で木を切り倒していたため、コナラが育つ良好な土壌が失われ、その結果やせた土地でも育つアカマツが繁茂した。
江戸・明治時代から戦前まで	江戸時代になると、山林は薪や炭などの燃料としてだけでなく、稲作の肥料として下枝や落ち葉を集めたり、水田に必要な水を確保したりするため非常に重要視された。その結果林床も明るくなり、陰樹のシイやカシ類ではなく、陽樹のコナラやアカマツの実生が発芽・成長し、雑木林として安定してきた。このように江戸時代以後水田耕作が広まることで、里山としての森林の重要性が評価され、人と森林とが共に生活してきた。
戦後	燃料革命により里山の大部分が放棄された。伐採されなくなったコナラ林では樹木がどんどん大きくなり、林内は暗くなって若いコナラが成長できなくなった。代わりに日陰でも大きくなるカシ類などが増えつつある。また、痩地や山頂に生育するマツについては、高齢化や環境の変化による病害虫の被害も加わって、アカマツが次々と枯れる「マツ枯れ」が進行した。このままの状態では丘陵地の雑木林を放っておくと、今後は遷移の進行により、陰樹が繁茂する照葉樹林へと遷移すると予想される。



学術班

「森の生物を知ろう」 学術班 坂東 龍二さん

誰でも森へ入って最初に目にする樹木の名前が分かれば関心が増すのではないと思われる。そこで樹木札を付ける事に決定。

10月14日、10名の出席でコナラの丘よりアラカシ広場に至る周辺の樹木、コナラ、ヤマザクラ、スギ、ヤマハゼ、カキ、ヤマグワ、クリ、フジ、ウツギ、リュウブ、ヤマモモ、モチツツシ、タカノツメ、ヒサカキ、ソコゴ、ネズミモチ、アカメガシワ、クロバイ、シャシャボ、ネジキ、イヌツゲ、アラカシ、カスミザクラ、チャノキ、シロカガシの25種類に今回は決定。各自2-3種類を受持つてそれぞれの特徴、名前由来等を手書きで4-5枚作成して10月26日持参する。当日は全員でラッピング、穴あけ、紐通しの後に樹木に取り付け各自説明する。その後堀田先生、夏原先生、福田(謙)さんより補足説明があり、又質問等を行った。

開拓班は山を切り開き産になる階段を作ってください有難うございました。食事班は無農薬で新鮮な野菜がたっぷりです汁の味は大変旨かった。遊び班は幼児の参加があった。成長した時の状態が記憶に残っているかな。

次なる行動は植生調査を行い残すものほどのような形で残し伐採、枝打ちをどのようにするかを全員で考え学ぶ事が急務ではないでしょうか。力を合わせてがんばりましょう。



開拓班

「開拓班始動セリ」 開拓班 原田 克史さん

「ウーン」私は秋の嵐山を胸一杯に呼吸する。山の匂いには貴重な滋養がたんと含まれているのだ。

さて作業は開始された。予定していたアラカシ広場の拡充は過日の事前準備に於てほぼその完了を見た。故って我々が初舞台は山道の整備へと移行する。すなわち、コナラの丘からアラカシ広場の間にその総力を結集することとなった。主なる作業は階段の造作及び根ザサの切株除去である。自分は切株の除去を担当した。半端な仕事に見えるが実際には可成骨が折れる。倒れた根ザサが切株を覆っている箇所などは刃が入って行かない。それで根ザサをはねのけるようにして株を払っていく。また木の根や窪みが妨げをなすこともあり伏兵の出現には難渋する。

かつてチャールズ・ダーウィンは「種の起源」を著わして進化論を唱えた。ではこの根ザサの猛威は何が進化してこのような状況を生じているのか。これは山の温暖現象とも言うべきものである。人の心の温度がこのような荒廃を招いてしまっている。これは退化論である。いややそう。そのような物思いに耽っておられる場面ではなかった。仕事には慎重を要す。況して得物は総利とせている。余念は禁物である。

切株の始末を終えた頃にはどうやら階段の方にも片が付いたようであった。整備を済ませた道は幅も広がり、階段も中々具合よく屈指さえあっていいものが出来ている。先ずは一段落である。約しも11時20分。食事班による質問はまもなくであった。



食事班

「森の中の食事」 食事班 衣笠 加代子さん

曇りまっていた天気も、秋晴れの日差しに恵まれ森の中の野外イベントが始まりました。

4つのグループに分かれ、私は食事班。サアー美味しい汁を作ろうと張り切りました。

アラカシ広場まで重たいU字鍋や水を選び上げ枯れ枝等で火を起す人、煙が目が痛いようです。採れたての野菜をご寄付頂き、地元産の野菜と一緒に刻んで、大きな鍋2つに溢れるくらいのお汁を煮え立たせました。不揃いの大根、人参、南京、茄子、その他具たくさんのお汁です。

丁度お昼に間に合って他の3グループの方たちもそれぞれ午前の仕事を終えて、広場が集まってこられ、楽しい食事が始まりました。

美味しいよ一言に食事班は笑みがこぼれます。森の中の柿を採ってきて下さったので、割いたら青っぽい小さい柿なのに、甘かったよ。さつま芋のつるもゆがいて入れました。初めて食べると言う人、昔食べたのよと郷愁を感じる人、それぞれです。最近でくるんださつま芋も火の中から少し黒焦げつきながらいい匂いをさせています。

青い空と紅葉の始まった森の中、暖かい太陽、その中で食べる昼食は美味しさが増します。

午後からは食材マップ作りで森の中を歩きました。柿、むかご、あけび、よもぎ、食べられない草もたくさん見つけました。わらびの広場もあって、春が待ち遠しいなー。



遊び班

「皆さん、来て下さい!」 遊び班 児島 俊子さん

ハゼの木の紅葉と鈴成りの柿の実を見ながらアラカシ広場で10月26日(土)にチームの家族やお孫さん、お友達を招いて「森の遊び」をしました。

チームの森下さんのご指導で笛作りやあべまきどんぐりで可愛いトトロ作り、中にはもぎ取った柿の種でミッキーマウスを作っている人もいました。出来具合にそれぞれ個性があり満足顔でした。

幅では食事班の汁のいい匂いがしてきます。お昼に「お昼が小さい」だの「大きいを持ってくれば良かった」だのといながら汁を入れて貰いいただきました。

体も暖まります。皆の笑い声を聞きながら身長より高い飯敷で荒れ果てていたアラカシ広場をイベントができるまでになったことで充実感に浸りました。私達はワークショップで里山の自然の大切さを話し合いながら少しずつの開拓でまだ小径とは言えませんが自然を受取る方はふれあいの森に足を運びませんか。忘れかけていた何かに出会えるかも知れませんよ。

問合せ先

「(仮称)自然ふれあいの森」
管理運営準備委員会 事務局

堺市 公園整備課 | 株式会社 緑景
TEL:072-228-8174 | TEL:06-6763-7167
FAX:072-228-1336 | FAX:06-6765-5599

ホームページアドレス

<http://sakaisatoyama.cool.ne.jp/>

アクセス方法



泉北高速鉄道
泉ヶ丘駅下車

南側2番のりば
鉢ヶ峯行き
公園墓地北口下車
(約15分)

